

第11回 中国の思想(1)

- | | | |
|------|---|---------|
| 1 A | 天上にあって天候や農耕をつかさどるいっぽう、命令を下して人びとの安寧をはかったとされる、古代中国で信仰の対象となった超越者を何というか。 | 天 |
| 2 A | 古代中国において天上の超越者が人びとに示す意志を何というか。 | 天命 |
| 3 A | 周が都を洛陽にうつしてから滅亡するまでの時代で、諸侯が異民族の侵入と中国統一をかけて戦いを展開した時代を何というか。 | 春秋・戦国時代 |
| 4 A | 戦乱によって礼を中心とした社会秩序が崩壊するなかで、新たな価値を模索して登場した多くの古代中国の思想家たちを何というか。 | 諸子百家 |
| 5 A | 内面的徳としての仁と実践的な徳としての礼を重視する社会の実現を理想とした、孔子とその流れをくむ人びとの学派を何というか。 | 儒家 |
| 6 A | 乱世の原因は人間が大いなる自然の道を忘れていたずらに秩序や制度を操作するためと批判し、無為自然を説いた老子や莊子を中心とする学派を何というか。 | 道家 |
| 7 B | 儒家の仁を別愛と批判し、別け隔てのない愛や非戦を説いて儒家とともに戦国時代にさかえた学派を何というか。 | 墨家 |
| 8 A | 戦乱の世に別け隔てのない愛や非戦を説いた中国の思想家は誰か。 | 墨子 |
| 9 A | 墨子は儒家の愛を批判し、自他の区別のない愛を説いたが、それを何というか。 | 兼愛 |
| 10 B | 墨子は他を愛することは他に「利」をもたらし、それは同時に自らにも「利」をもたらすと考えたが、それを何というか。 | 交利 |
| 11 A | 兼愛や交利をさまたげる戦争の非道をとなえた墨子の説を何というか。 | 非攻説 |
| 12 A | 礼や道徳によるのではなく、信賞必罰を統治の原理として取り入れた中国戦国時代の学派を何というか。 | 法家 |
| 13 A | 有徳者による政治ではなく、厳格な法律・命令にもとづいて行われる政治のあり方を何というか。 | 法治主義 |
| 14 A | 荀子の礼治主義を学んだのち、それを発展させて一家をなし、秦朝につかえた思想家は誰か。 | 韓非(韓非子) |
| 15 C | 孫子・呉子などを代表とする、戦略や用兵を説く学派を何というか。 | 兵家 |
| 16 C | 公孫竜に代表される、弁論・説得の術を説く学派を何というか。 | 名家 |
| 17 C | 許行に代表される、勤労を尊び農業の重要性を説いた学派を何というか。 | 農家 |
| 18 C | 合縦・連衡策などにみられるような、外交術を説く学派を何というか。 | 縦横家 |
| 19 B | 古来の天文・暦法を用いて社会現象を説明した、中国戦国時代の学派を何というか。 | 陰陽家 |
| 20 B | 世界を二つの原理と、木・火・土・金・水の五つの要素によって説明しようとした、中国戦国時代の宇宙生成論を何というか。 | 陰陽五行説 |
| 1 A | 人間の基本感情としての親愛の情とそれにもとづく政治を説き、周の社会を理想とした儒家の祖は誰か。 | 孔子 |
| 2 A | 古代中国の聖人や君子の説く教えを学び、これを継承・発展させていこうとする、孔子によって開かれた学問を何というか。 | 儒学(儒教) |
| 3 A | 人と人とのあいだに生まれでる自然な親愛の情で、孔子の思想の中核をなす精神を何というか。 | 仁 |
| 4 A | 自分の心に誠実であることと、他者に対する思いやりをもつことを孔子の思想では何というか。 | 忠・恕 |

- | | | |
|------|---|------|
| 5 A | 子が親に対していただく親愛の情と、弟が兄に対していただく親愛の情を孔子の思想では何というか。 | 孝・悌 |
| 6 A | 内面的な仁が行為や態度として外面化したものを儒教では何というか。 | 礼 |
| 7 A | 自分だけの狭い欲求や願望に打ち勝って、社会の正しい規範に自覚的にしたがおうとすることを儒教では何というか。 | 克己復礼 |
| 8 A | 知・仁・勇の徳を兼ね備え、礼を体現している聖人を儒教では何というか。 | 君子 |
| 9 B | 自らが徳を修めることによって人を治めるという意味で、道徳と政治を一体としてとらえた儒教の考えを何というか。 | 修己治人 |
| 10 A | 法律や力によって行う法治主義に対して、自らの道徳的権威によって政治を行うことを何というか。 | 徳治主義 |
| 11 A | 孔子の死後、弟子たちが師の言行を記録したもので、儒教の経典である四書の一つを何というか。 | 『論語』 |